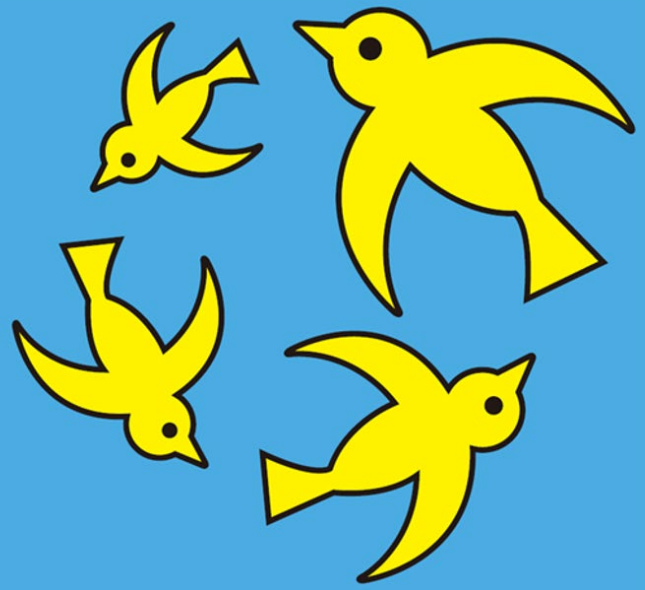
新しい学習指導要領

生きる力

学びの、その先へ



中央教育審議会
教育課程部会
次期学習指導要領に向けた審議まとめ

理科ワーキンググループ
理科ワーキンググループ取りまとめ（案）
※会議後修正

令和8年度 国立教育政策研究所 教育課程実践検証協力校事業

大田区立萩中小学校

誰もができる理科授業　そして、これからの理科

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課
教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部
教育課程調査官・学力調査官
有　本　　淳

文部科学省

本日のアウトライン

○ 本日の研究、授業について

○ 次期学習指導要領の改訂に向けた検討状況

・ 主体的・対話的で深い学びの実装を中心に

本日の研究、授業について

学習後の姿（本時の目標・評価）

見通しをもって
観察、実験を行うことなど

学習前の姿（児童観）

育成する資質・能力



学習評価の進め方
①単元の目標を作成
②単元の評価規準を作成
③指導と評価の計画を作成
【授業の実施】
④観点ごとに総括

教科等横断的な学習の充実（理科で育成する資質・能力）

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善



〇教師自身の指導の改善に向けた評価
〇子供の学習改善に向けた評価
← 指導と評価の一体化

〇個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
← 「多様な子供を誰一人取り残さない」

●GIGAスクール構想の実現【デジタル学習基盤】

本日の研究、授業について

研究主題　誰もが自信をもって考察を書き、主体的に問題解決する児童の育成

～次の学習につなげる考察場面を意識した授業改善を通して～

研究主題に迫るための手立て

（1）誰もが使える萩中「考察シート」

（2）≪個人→小集団→全体≫を基盤とした学習の流れ

（3）予想から考察までの過程を振り返るICT活用

萩中プラス

〇考察シートに「＋（プラス）」を追加

〇考察がすぐ書けるようになる「結果の見通し」の場面を追加

資質・能力

まとまり（内容・時間）

方略

価値（興味・獲得・利用）

コスト

本日の研究、授業について

研究主題　誰もが自信をもって考察を書き、主体的に問題解決する児童の育成

～次の学習につなげる考察場面を意識した授業改善を通して～

本日の授業

- ○ 育成する資質・能力が明確
- ○ 指導と評価の一体化(重点、記録)
- ○ 観察、実験の結果の見通し
- ○ ＩＣＴ端末の活用
- ○ 表現することの価値

教　科	学年・組	単元等	授業者	授業場所
生活科	１年１組	あきとなかよし	朝田　裕香子	１年１組 教室
	１年２組	あきとなかよし	田中　景子	１年２組 教室
	２年１組	せかいでひとつわたしのおもちゃ	柳瀬　あゆみ	２年１組 教室
理科	３年１組	物の重さ	嶋田　秀一朗	３年１組 教室
	３年２組	物の重さ	中村　紗衣	３年２組 教室
	４年１組	物の体積と温度	佐藤　芳樹	４年１組 教室
	５年１組	流れる水のはたらき	二見　友海	理科室
	５年２組	台風と天気の変化	平野　秀馬	５年２組 教室
	６年１組	てこのはたらきとしくみ	生井　光治	６年１組 教室

本日の研究、授業について

考察シートプラス

予 問題に対する自分の予想を振り返って書く。
（例）わたしは、・・・だと予想した。

結 実験や観察の結果を書く。（事実）
（例）結果は・・・だった。

分 結果からどのようなことが分かったのかを書く。（自分の結論）
（例）この結果から、【問題】は○○○○であることが分かった。

プ 予想から結果までの中で、気づいたことを書く。
身の回りの生活とつなげて考えたり、新たな問題を見いだしたりする。
（例）この実験で、まだ●●●ということは明らかになっていない。



4つ書けた ⇒ プロフェッショナル
3つ書けた ⇒ スペシャリスト
2つ書けた ⇒ マスター
1つ書けた ⇒ チャレンジャー

小学校理科の目標

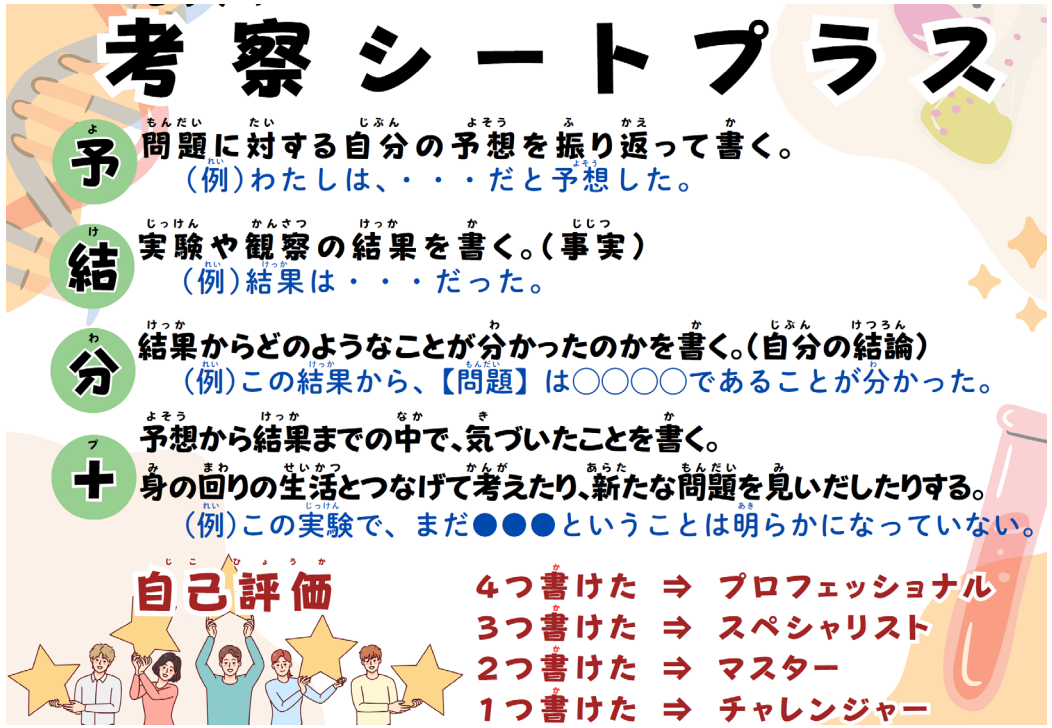
自然に親しみ，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）自然の事物・現象についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
（２）観察，実験などを行い，問題解決の力を養う。
（３）自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

『小学校学習指導要領(平成29年告示)』文部科学省

本日の研究、授業について

問題解決の過程



- 問題の設定
- 予想や仮説の設定
- 解決の方法の設定
- 観察・実験の実施
- 結果の整理
- 考　察
- 結論の導出

本日の研究、授業について

共有しておきたいこと

① 資質・能力の育成が目的となっていることが大切

- 全ての指導の工夫は資質・能力の育成に向かっているか？
- 教師の指導の工夫によって、子供は想定された姿を見せるのか？
- 問題意識をもっているか？



② 問題解決のそれぞれの過程における思考は、問題との整合性が大切

- 問題と仮説、仮説と解決の方法等は整合しているか？
- 子供が行っている検証と考察、結論は整合しているか？



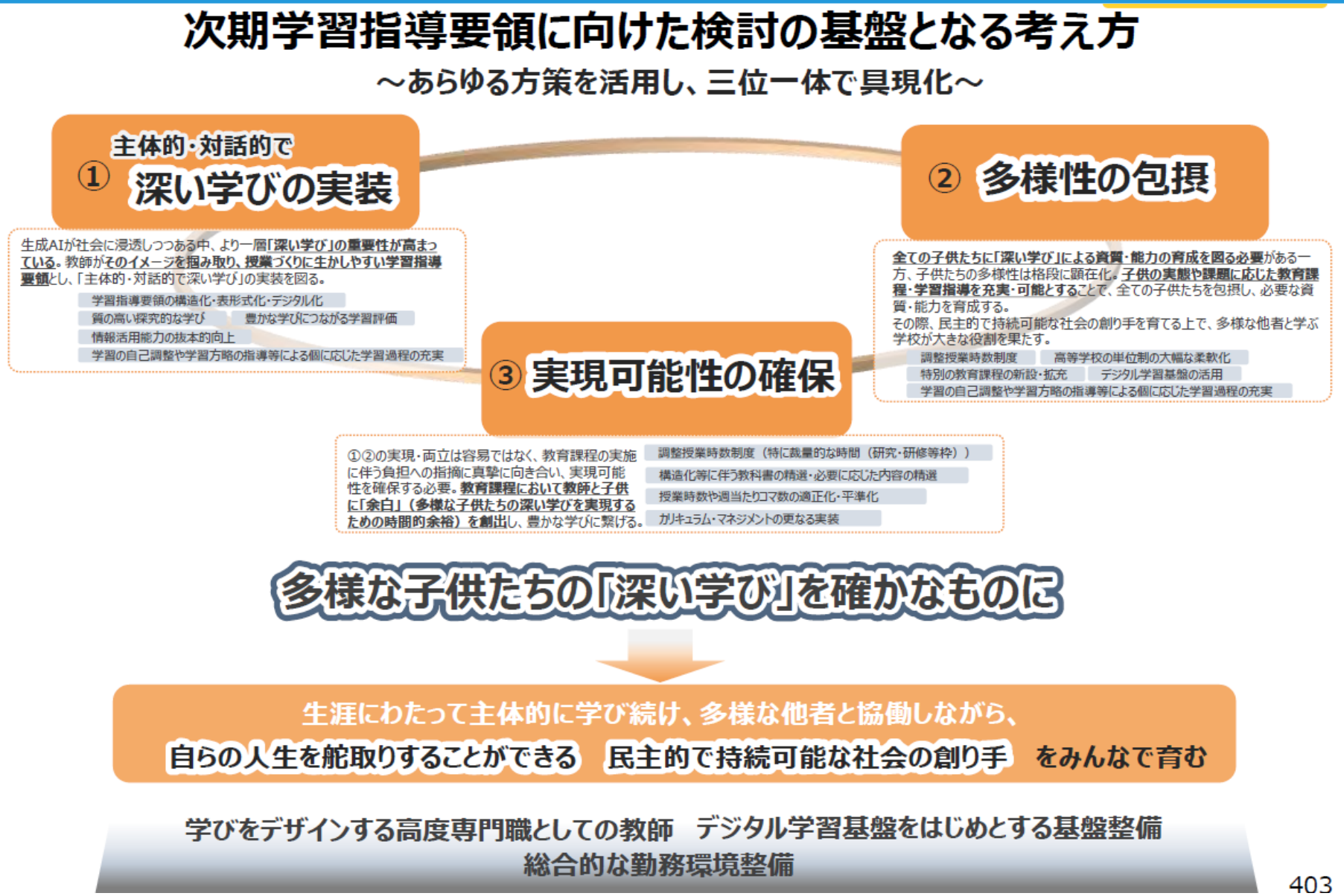
③ 子供の笑顔が大切

- 「？」と「！」が繰り返されているか？



次期学習指導要領の改訂に向けた検討状況

学習指導要領改訂の大きな方向性



『次期学習指導要領等に向けた審議まとめ』文部科学省（令和8年10月5日教育課程部会）より抜粋

次期学習指導要領の改訂に向けた検討状況

（３）改善の方向性（一部抜粋）

総　論

〇科学的な素養を全国民に修得できるようにする。

〇科学技術・学術を担う専門人材の育成する。

〇小学校段階から理科を学ぶ楽しさや学ぶ意義を実感させ、
それを中・高等学校と抱き続けられるようにする。

〇小・中・高等学校の学びを着実に積み重ねていく。

〇小・中・高等学校の学びの一貫性・系統性・連続性の一層の確保を図る。

〇高等学校段階では学校がより多様で柔軟な理科のカリキュラムを編成・
実施できるようにする

『次期学習指導要領等に向けた審議まとめ』文部科学省（令和8年10月5日教育課程部会）より抜粋

次期学習指導要領の改訂に向けた検討状況

1 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性④

（３）改善の方向性（一部抜粋）

目標及び見方・考え方のあり方

○一貫性・系統性・連続性を確保した指導を充実する観点から、小・中・高等学校で教科の目標を統一する。

○共通する４つの「分野」（物理・化学・生物・地学）で整理する。

○「科学的な探究」の過程を教育課程全体で位置付け、解説等も活用して具体的に示す。

○新たな見方・考え方として「自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、観察、実験の結果や科学的知見などに基づいて、客観的、論理的、批判的に考察すること」との規定。

内容の改善のあり方

○分野横断的な課題について学ぶ学習内容を小学校にも新たに設定する。

○「科学ガイダンス」を中・高で新たに設定する。

○小学校段階から理科を学ぶ楽しさや学ぶ意義を実感させ、それを中・高等学校と抱き続けられるようにする

○「科学と人間生活」の学習内容を見直し、「科学と人間生活（４単位）」を新設。

○学習内容については、高次の資質・能力を踏まえた見直し・精選等を図る。

『次期学習指導要領等に向けた審議まとめ』文部科学省（令和8年10月5日教育課程部会）より抜粋

探究の過程における用語の統一について（案）

更新した資料

※実際の指導場面において、児童生徒の発達段階や探究の深度等に応じて例えば「課題」を「問い」や「問題」、「仮説」を「予想」などと表現することは何ら妨げられない。また、小学校の学習過程の難化を招くものではない。これらについては学校現場への丁寧な周知が必要。

※用語の統一が教育実践としての問題解決学習を否定するものではないことに留意。

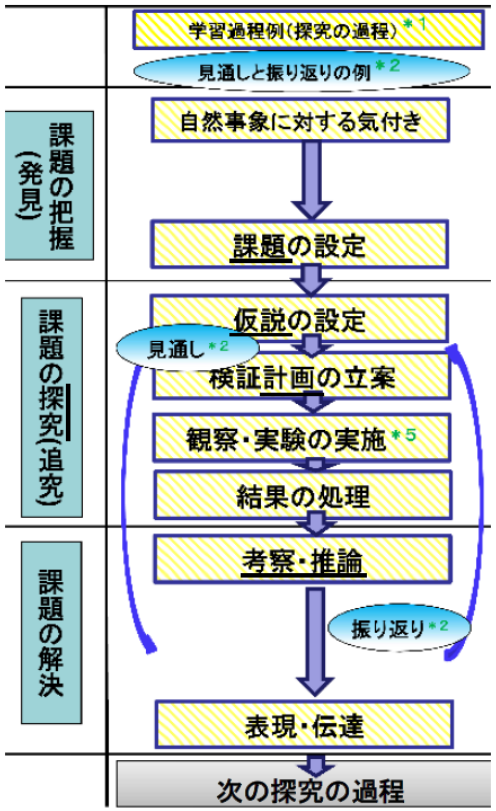
小学校の学習過程例（問題解決の過程）

小学校理科の観察，実験の手引き（H23）

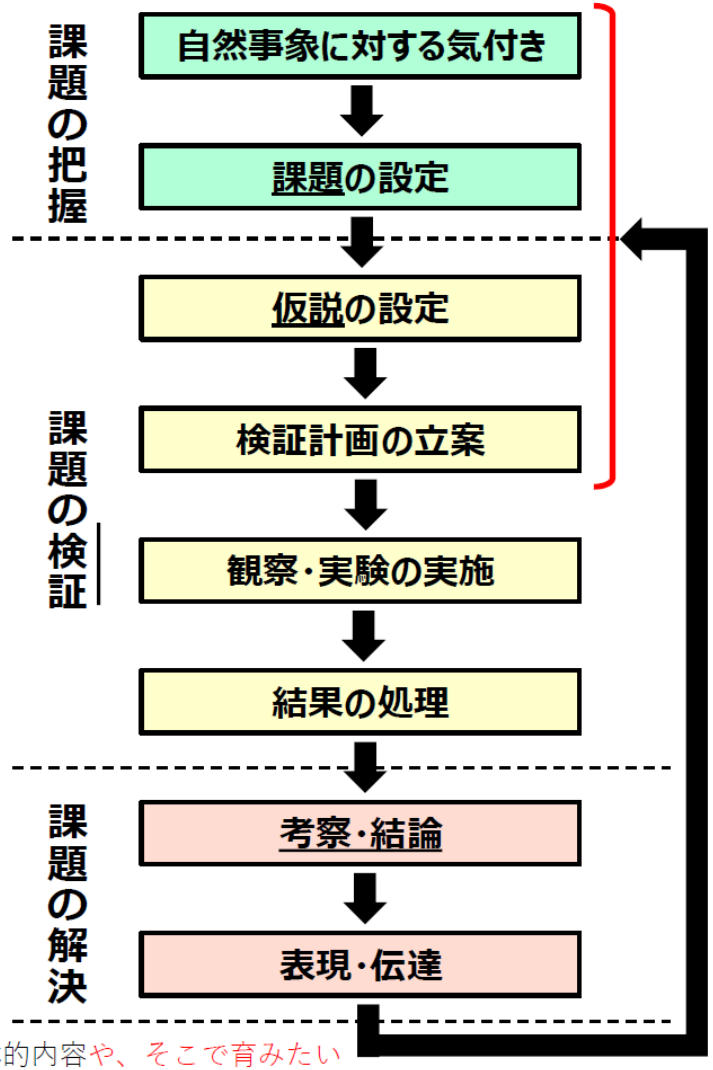
- 自然事象への気付き
- 問題の設定
- 予想や仮説の設定
- 検証計画の立案
- 観察、実験
- 結果の処理
- 考察
- 結論の導出

中学校・高校の学習過程例（探究の過程）

学習指導要領(H29/30告示)解説



科学的な探究の過程（例）



※下線は変更箇所

※それぞれの過程の具体的内容や、そこで育みたい力については、小・中・高の解説で詳説

『次期学習指導要領等に向けた審議まとめ』文部科学省（令和8年10月5日教育課程部会）より抜粋

理科の目標の整理について

補足イメージ①

（現行）

	柱書		
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**学びに向かう力・人間性等**
小学校	自然に親しみ，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	自然の事物・現象についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察，実験などを行い，問題解決の力を養う。	自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。
中学校	自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に進んで関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。
高等学校	自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。

（改訂案）

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等

小・中・高等学校	自然の事物・現象を科学的に探究する資質・能力について、見通しをもって観察や実験を行うことなどを通して、次のとおり育成することを目指す。		
	自然の事物・現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重する心情や人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。

『次期学習指導要領等に向けた審議まとめ』文部科学省（令和8年10月5日教育課程部会）より抜粋

新たな「見方・考え方」について

補足イメージ②

更新した資料

- **教科としての一貫性**に鑑み、引き続き、**小・中・高等学校で、文言の統一**を図る。
- その際、**見方・考え方を働かせる対象**について、現行では「（身近な）自然の事物・現象」に限定されているが、新たな「見方・考え方」が「学校教育のみならず、その後の人生でも豊かに働くことを視野」に入れることとされていることを踏まえ、**より社会との接続を意識した規定ぶり**とする。
- また、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」に焦点化するという全体的な方向性を踏まえれば、社会における**クリティカル・シンキング（批判的思考）**の重要性の高まりを踏まえる。

（現行）

【小学校】
身近な自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの問題解決の方法を用いて考えること

【中学校・高等学校】
自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること

（改訂案）

【小・中・高等学校】
自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、観察・実験の結果や科学的知見などに基づいて、客観的、論理的、批判的に考察すること

『次期学習指導要領等に向けた審議まとめ』文部科学省（令和8年10月5日教育課程部会）より抜粋

理科の各分野の区分について①

●資質・能力に関する教師の理解を容易にする観点から、**<u>各「分野」をさらに３つ程度の区分に分類</u>**

（現行）

分野	（中学校） 第１分野							（中学校） 第２分野					
領域	エネルギー			粒子				生命			地球		
	エネルギーの捉え方	エネルギーの変換と保存	エネルギー資源の有効利用	粒子の存在	粒子の結合	粒子の保存性	粒子の持つエネルギー	生物の構造と機能	生命の連続性	生物と環境の関わり	地球の内部と地表面の変動	地球の大気と水の循環	地球と天体の運動

（改訂案）

分野	物理分野			化学分野			生物分野			地学分野		
区分	作用と変化	空間における伝搬	保存とエネルギー変換	物質の構成	物質の性質	物質の化学変化	生物の構造と機能	生命の連続性	生物と環境の関わり	地球の内部と地表面の変動	地球の大気と水の循環	地球と天体の運動
横断的学習内容例※	(中学校) エネルギーと物質						(中学校) 生物と環境					
	(小学校) 理科と日常生活【新設】 (中学校) 自然環境の保全と科学技術の利用 (高等学校)科目「科学と人間生活」											

※学習内容例については現行学習指導要領をベースとしたもの。

『次期学習指導要領等に向けた審議まとめ』文部科学省（令和8年10月5日教育課程部会）より抜粋